

平成27年度 第2回高等学校入学者選抜審議会 記録

平成27年12月11日（金）10:00～12:00

県庁9階 第一会議室

<審議会委員>

菅野 仁委員長，高城 裕行委員，伊藤 宣子委員，星 豪委員，齊 隆委員，菅原 義一委員，
坂本 憲昭委員，加藤 順一委員，伊東 玲子委員，阿部 恒幸委員

（欠席：青木 栄一副委員長，坪田 益美委員，金田 隆委員，豊嶋 修委員，
熊谷 祐彦委員，村上 礼子委員）

<県教育委員会>

鈴木 洋教育次長，伊藤 正弘教育企画室長，桂島 晃義務教育課長，山内 明樹高校教育課長，
（欠席：高橋 仁教育長，西村 晃一教育次長）

<仙台市教育委員会>

千葉 剛仙台市教育局学校教育部高校教育課長

（事務局）	（資料の確認）
	（開会）
（事務局）	（委員紹介）（公開確認）（委員出席者紹介）
（鈴木教育次長）	（開会挨拶）
	（県教育委員会出席者紹介）
	（委員長進行開始）
（委員長）	それでは，次第に沿って，報告に入ることとする。 報告事項（1）平成28年度宮城県公立高等学校志願者予備調査について，事務局より報告願う。
（事務局）	（事務局から説明）
（委員長）	では，只今の報告について，ご質問ご意見はないか。 前期選抜の倍率については，かなり意欲的に取り組まれているという傾向か。 ご質問ご意見がないようなら，次に進む。 では，報告（2）専門委員会報告「新入試制度の定着に向けての改善の方向性」について，報告願う。
（事務局）	（専門委員会座長欠席のため，事務局から説明）
（委員長）	では，今の報告について，ご質問ご意見願う。

	<p>大体の大枠については、以前から専門委員会で審議していただき、今回、質問紙による調査という具体的在り方をご提示いただいた。調査研究の目的を踏まえ、観点としては、検証として「旧制度からの変更点の効果はどうであるか」、評価として「新しい入試制度の課題と改善の方向性」はどのように考えられるか、ということだ。手元の資料をご覧いただきたい。四択、中学校、高校それぞれに分かれており、学校毎に質問紙調査を行うということだ。</p> <p>全体を見渡して、ご意見ご助言願う。</p>
(伊藤委員)	<p>このアンケート調査だが、調査対象が公立高等学校だと思うが、やはり私立にも宮城県の子どもたちは存在するという観点で、やはり私立を受ける子ども、公立を受ける子ども、その教師たち、親たち、ということを見ると、このアンケート調査から私立学校はその審査対象にあらずということでもいいのかと考える。</p> <p>私はこの場に立たせていただいているのは、私立学校も公的な教育の場であるという、私立学校側からの代表という立場だ。その観点から、調査対象の中にも何らかの形で、この県内の私立学校の思いを聞いていただければと思う次第だ。</p>
(事務局) 〈山内課長〉	<p>まずこの調査は、平成24年度に新入試が行われ、その後最初に設けられた検証のための専門委員会で質問紙調査などを行いながら継続的な検証を進めていくようにという提言を受けて、それを踏まえて初めて行う質問紙調査ということになる。今回、目的のところにも入れ込んであるが、3カ年間の実施状況を踏まえた評価ということにし、質問紙の内容も、事務手続きはどうだったか等、実際の入試そのものに関わったところの経験を踏まえて回答いただくことになっている。よって、調査対象については、資料1、予備調査の資料になるが、その報告1に、出願者予備調査ということで、調査対象学校が記載されている。</p> <p>中学校側からすれば、県内の国立・公立・私立の中学校等々、受け入れる側の高等学校としては、「3」にある学校だ。よって、入試に3カ年間直接関わった当該校を対象とした。ただ一方で、伊藤委員からご指摘あったことは重要な点だと思っている。この質問紙調査はこれが限りではない。今回は調査の目的に沿って対象をこうさせていただいたので、今後、実際の中学校3年生の意見、高校生の意見、保護者の意見等、さまざまな形で調査を行っていく必要があると考えているので、目的の趣旨に合わせて、私立の高等学校の方にも対象を広げて実施する場合、今後検討していきたい。</p>
(伊藤委員)	<p>ありがとうございます。この調査を指摘したいのではなく、何らかの形で私立高等学校の子どもたちにも調査いただければと思う。今の回答で、結構である。</p>
(委員長)	<p>この調査はこれ1回きりということではなく、観点を定めて、また新たな意見を聴取することを検討することもあるということだ。他にはないか。</p>
(事務局) 〈山内課長〉	<p>これについては、事務局で早く準備をし、前もって郵送する等の形をとれば、もう少しご意見をいただけたのではないかと思います。不手際を申し訳なく思っている。</p> <p>今日、概要についてご理解いただけたところと思う。まだ実際の各学校への調査依頼までは余裕があるので、お気づきの点があれば、事務局までお知らせいただきたい。</p>
(委員長)	<p>それでは、質問等を含め精査していただき、気になる点やアドバイスがあれば事務局までご連絡いただきたい。それでは、報告の(2)は以上とする。</p> <p>では次に、審議に移る。</p> <p>審議は(1)平成29年度宮城県公立高等学校入学者選抜方針について、(2)平成29年度宮城県公立高等学校入学者選抜日程について、第1回目に引き続き</p>

	<p>審議していく。</p> <p>これについては、本日答申をまとめていきたいので、御協力をお願いしたい。では、事務局から答申案について説明をお願いする。まずは、入学者選抜方針について、お願いする。</p>
(事務局)	(事務局から説明)
(委員長)	これについては、前回は審議いただき、今年度と同じでいいのではないかと、うご意見であったが、その後、何かお気づきの点等あればお願いしたい。
(伊藤委員)	3ページ目、4の二次募集について。今から申し上げるのは内規事項かと思うが、いわゆる二次募集を行うときに、入学手続きを完了した生徒は二次募集の出願は「できない」ということなのか、あるいは、「できる」ということなのか、この辺はいかがか。昨年度も、私立学校の合格、入学手続き完了生徒が出願できる、できないという話があったが、この辺のところはどのように考えたらいいか、もう一度確認したい。
(事務局)	ただいまの第二次募集の出願資格については、入学者選抜要項で定めている。選抜要項の内容としては、出願資格は私立高等学校の合格者の中でも、第1次手続きを済ませて、第2次の手続きを完了していない者については第二次募集の対象となるが、手続きを完了した生徒については、出願資格はないと定めている。
(伊藤委員)	そのように定められているということだが、その辺のところはまだ周知されていないということだけ、述べさせていただきたい。
(事務局) 〈山内課長〉	ただいま話しました、この選抜要項であるが、これは10月に作成し、その後、中学校・高等学校の担当者を集めての説明会を実施している。今の点については口頭で確実に触れるようにしていく。
(委員長)	<p>ではその確認はぜひお願いしたい。その他あるか。よろしければ、平成29年度入学者選抜方針は原案どおり答申することとする。</p> <p>では次に、選抜日程について審議していく。まず、事務局から答申案について説明をお願いする。</p>
(事務局)	(事務局から説明)
(委員長)	<p>前回の審議会ですさまざまな意見をいただいた。7ページ、ご覧いただければわかるとおり、いろいろ悩ましい問題がある。中学校・高校それぞれのお立場もあり、それぞれの希望を全てかなえるということは難しいのは毎年のことである。その中で、折り合いをつけるため事務局には尽力していただいた。今回、案5という形の提案を事務局から出していただいた。説明いただいたとおりだが、水曜日実施については、他の曜日では準備や試験問題の保管問題のこともあり、できれば水曜日、週の中でという点はクリアしていると考えられる。さらに、後期選抜における事務処理日数のこと。ただ、問題点としては後期選抜を1日下げた結果、第二次募集が24日の終業式にかかるということだ。しかし、前回のご意見を総合して考えた場合、この案5が皆さんのさまざまな立場から1番支持されるのではないかと考えている。案6については、案5との違いは第二次募集の日程だが、今回の答申そのものの範囲ではなく、実施の在り方の中で決定することだ。今回の答申は、前期選抜、後期選抜の日程の決定にあることから、その限りにおいては案5、案6は同じである。</p>

<p>(事務局) 〈山内課長〉</p>	<p>ただいま大枠を見ていただいたとおりだが、案5は案1の前期分に案3の後期分を継いで、事務処理日程4日を5日に増やしたものだ。案6は、伊藤委員等の意見も踏まえ、1日でも後ろに下げられないかということを検討した結果だ。ただ、先程の事務局の説明に加え、少し懸念されることがある。それが次の2点だ。1つは、高等学校側からすると、2日に前期選抜を実施、3日を採点日とした場合、受験者の多い学校では採点が終わらない場合が出てくることが考えられ、できれば後ろに2日間確保したい。また、中学校側からすると、10日に合格発表となった場合、そこから連休になり、翌日に中学校が指導できないのではないかとといったところから、やはり9日に発表としたほうが翌日それなりの手当をした上で連休には入れると考えられ、やはり1日下げるのは苦しいのではないかと判断である。</p>
<p>(伊藤委員)</p>	<p>案5とした場合、やはり二次募集のことが気になる。私学としては、入学者数を確認し、次の動きに入らねばならないということがある。ということから、新年度をスムーズに迎えるためにも、先程ご説明いただいた、選抜要項の「二次手続きを完了した者は出願できない」ということを浸透させ、守っていただきたい。そうでないと、入学者数に変更、さらに変更となると大変困る。二次募集の結果がでるのが後ろに動くのであれば、この辺のところをご理解いただきたい。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>こういう日程であれば、なおさら先程の事項についての周知をよろしく願いたいという伊藤委員のご要望であった。その他、ないか。</p>
<p>(伊藤委員)</p>	<p>このような形で出てきているということで、毎年話をさせていただいているが、どうしても私立学校の入学試験日が例年よりも2日早くなってしまう。これを公立高等学校の選抜と同じ週に持っていくことは、子どもたちにとってはよくないことであり、また、前期選抜の後に私立学校の入試を持って行くことは、これは子どもたちにとっては、してはならないことだと思う。いわゆる、推薦入試と違うということ、学科試験を課す、前期選抜であるということを見ると、やはり私立学校の入試は公立高等学校の入試の前だと思う。そうすると、中学校側の入試指導ということでは、例年よりも2日、3日早くなるということが予測できる。その辺のところ、常々同じ意見を出させていただいているのだが、現在の前期選抜・後期選抜の制度というものは、推薦制度の改善としてはよきものと認識はしているが、その結果として、やはり日程等の様々な面で大きく影響し、子どもたちにも、中学校現場にも、高等学校現場にも、様々な面で影響している。非常に難しい日程であることから、やはり考えていかなければならない。今の日本の教育界では、大学教育改革、高等学校教育改革、入試制度改革、この三位一体の教育改革がうねりをあげて展開している。その中であって、子どもたちの教育環境をどうしたらいいのか、この形しかないのか、もう少し検討の余地はないのか。その観点での検討の方向性を持っていただくことを、私は懇願したいと思っている。</p> <p>それから、平成29年度は、センター試験がずいぶん早くなる。1月14日・15日。だいぶ世の中が変わってくる。この辺りのセンター入試もだいぶ様変わりをするだろうと思われる。そうすると、高等学校側の教育環境ということからも考えなくてはならないし、そこに3年後に入学することになる中学校側の生徒たちの育ち、しっかりとした中学校の教育環境を確保するという必要も必要になってくる。そういった観点から、どうか幅広く考察する機会に恵まれることを願っている。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>今のご意見は、具体的な日程調整というよりは、今後の入試制度そのものの改革の方向性ということである。先程の専門委員会での入試制度のアンケートなど</p>

	<p>もその一貫である。伊藤委員は具体的に発言はしていないが、入試を1回にするなどの案も考えられるので、次の入試制度改革をどうするかという問題意識を、この審議会等や専門部会をとおして我々全体が持ちたいというご要望だ。</p>
<p>(事務局) 〈山内課長〉</p>	<p>2つお話しする。まず、この29年度の部分をどう考えるかということだが、水曜日実施について、先程来いくつかの理由が挙げられたが、これを守っていくということで考えると、2月1日が第1水曜日になるときが一番早いという時となる。ここから後ろにずれていき、6年か7年に1回、2月1日が水曜日というのがやってくるというサイクルで、その最も早い年が平成29年に当たっているという事情がある。それともう一つ、後半の部分については、私どもも課題意識として持っている。先程、伊藤委員のご指摘にあった以外の部分でも、例えば、中学校における授業時数や日数の確保、その間における高等学校の生徒の指導の問題であったり、さまざまな問題からできるだけ入試を後ろに下げて、コンパクトにできないかということは私どもも考えている。その辺りも含めて、今日、2つ目の報告で申し上げた、いわゆる質問紙調査の中で、前期選抜の日程についてという質問や、あるいは入試全体の期間や時期についてという質問項目も設けてあるので、この辺りを全体がどう考え、どこに問題があるのかを探って、そのところも踏まえて、今後の議論に生かしていきたいと考えている。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>では順次そういう方向で、よりよい入試の在り方について検討していただきたい。その他、あるか。 では、ここで加藤委員、高校側の考えということでご意見を。</p>
<p>(加藤委員)</p>	<p>事務局で十分検討いただいて感謝する。高校の現場を預かる者としてはやはり、水曜日実施が望ましいので、案5ということでまとめていただけるとありがたい。なお、事務局からの話にもあったように、二次募集の部分については、今回の答申対象ではないということで、恐らく二次募集実施校にとっては公立高校側もこの日程は相当にきついという声が上がってくるのが予想されるので、来春の入試の状況等を踏まえて、二次の扱いについては、十分に柔軟に対応いただくようお願いする。</p>
<p>(事務局) 〈山内課長〉</p>	<p>関連で申し訳ないが、二次募集の部分については一応案5と案6と示しているが、加藤委員のお考えだと案5より、二次募集の部分だけでも案6のほうがというお考えか。その辺り、今発言できるのであればぜひお願いしたい。</p>
<p>(加藤委員)</p>	<p>二次募集をする学校の校長先生からすれば、案6のほうがという感じか。出願期間との問題があるので、今年状況等踏まえてご判断いただければよいと思う。</p>
<p>(事務局) 〈山内課長〉</p>	<p>おそらくこの後、中学校の校長先生からご意見いただくと思うのだが、その件も合わせてご意見いただければと思う。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>中学校の方はいかがか。星委員。</p>
<p>(星委員)</p>	<p>二次募集の出願の期間は、1日多い案5について、私はこの方向でいっていただければありがたい。というのは、昨年度よりは、二次募集への枠や校数が多く、悩みに悩んでどちらにしていかわからないと、直前まで悩んだ生徒がいた。最終的にはうまくいったが、そういう意味では、しっかりと考えて判断していくということで、その出願期間が1日でも多いというのは指導する中学校側にとって安心だ。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>さていかがか。高校と中学校側お一人ずついただいたが、他の委員でご意見あ</p>

	<p>るか。では、おおむね、やはり水曜日の実施日が望ましいというところでは中学校も高校も合致しているというところであるので、基本的には二次募集の運用の問題はあるが、基本としては案5という形で答申をさせていただくということでよろしいか。</p> <p>では、その形で答申する。</p> <p>それではここで、答申の準備もあり、時間も経っているので暫時休憩を取る。</p>
	(休憩)
(委員長)	<p>再開する。準備ができたということであり、それでは、答申文を確認の後、答申する。方針及び日程について確認したい。方針については「資料2 審議関係資料」の2～3ページと、ただいま配付された答申文をご覧願う。</p> <p>それでは、答申文の確認をお願いします。</p>
委員全員	(答申文の確認)
(委員長)	(答申文読み上げ確認)
(委員長)	それでは答申の提出に入りたい。
(委員長)	(答申文提出)
(委員長)	では、答申については以上で終了とする。
(鈴木教育次長)	それでは、私から、ただいま頂戴した答申については、教育委員会に報告し、できるだけ速やかに決定、公表したいと考えている。委員の皆様には、二回にわたり、慎重なご審議をいただいた。感謝申し上げます。
(委員長)	<p>では、次に、その他とあるが、委員の方々あるか。</p> <p>なければ、事務局のほうから連絡はあるか。</p> <p>なければ、本日の審議はこれまでとし、議長の任を解かせていただく。進行への協力に感謝する。進行を事務局にお返しする。</p>
(事務局)	(進行の交代) (閉会)